

おお大勝利

平成 27 年度山東サッカー一部報第 4 号 (5 月 13 日)

サッカー一部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1泥沼の3連敗 残留に早くも黄信号

4 月 25 日 (土) 羽黒戦、29 日 (水) 山形中央戦、5 月 6 日 (水) 米沢中央戦と、Y1 の 3 連戦¹が行われました。最初に結果に触れると、タイトルにある通り 3 連敗¹。まあ、実力相応の結果です。Y2 までは少ない戦力でも何とかごまかし戦うことができましたが、Y1 ではそうはいかない・・・分かっていたことではありますが、前期の前期にて早くも厳しい現実を突きつけられた山東。まずは、その 3 戦をざっとレポートしましょう。

まず、初戦羽黒戦。場所は素晴らしい環境の山形市球技場。前は我々が「市陸」と呼んでいた会場。今年上記名前でリニューアルオープンした人工芝ピッチ。市陸のときには土の陸上トラックもありましたが、それが取り払われ、サッカー専用グラウンドに近づいた。相手は羽黒。近年の山形県のサッカー界をリードしてきた庄内の新興勢力で、山東も H22 県総体決勝で敗れるなど肝心なところで煮え湯を飲まされてきた相手。しかし、ここ 1、2 年は全国の舞台から遠ざかっている。3 年前の IH では 1・2 年生が主力ながら星稜高校などをも破り全国ベスト 8 を経験しているだけに、その年の選手権予選からなぜか山形を勝ち抜けなくなったのは、県高校サッカー界の七不思議のひとつ。ただ今年のチームは昨年から主力を担ってきたメンバーが多く「完成学年」であり、今年はその悪い流れを断ち切る期待の持てるチーム。

試合が始まると、山東ずっと押され続ける。中盤ではボールを支配され、左右に振られ、アウトサイドからゴールにたびたび迫られる。正直、早い失点を予期させる立ち上がり。しかし、相手の攻撃を呼び込んで(?)から良い形でボールを奪い、CB シャモジがそのまま攻め上がり、シャモジ⇒サンペー⇒タイチのような流れでボールがつながる。正直ベンチでは「パスで逃げないで自分でボールを運べよ (シュート打てよ)」と怒声を上げていましたが、結局それがシュートまでつながり、こぼれたところを**期待の 1 年生カイト**が詰め、**山東先制**。この押されっぱなしの展開での先制は儲けもの。ただ、儲けものとはいえ、**ボールを奪ってから多く人間が羽黒ゴールまで走り、数的優位を維持した**のは

¹ 一応、言い訳しておく、**負けがこんだから書く気が起らず部報作成が後手を踏んだわけではありませ**ん。羽黒戦の後、すぐ山形中央戦が来て、すぐ GW 入りし、学校に行かなくなったので、部報作成する時間を取れませんでした (私は基本学校でしか PC を触らない⇒長期休暇中は部報作成は滞る)。あと、実は生後 9 か月の次男がアデノウィルスに伴う咽頭炎・胃腸炎そしてそれが元で肺炎になり入院したことで、バタバタしていたという理由もあります。ともかく、「負けたから更新されるのが遅い」と言われないうちに、これまでは、負けた時ほど部報作成を早めるよう努めてきました。ただ、確かに、勝った時の方が部報作成は楽しいですよ〜。

褒められていい。しかし、その後、左サイドを破られ角度のない所からシュートを許し、GKが弾いたところを詰められ、あっけなく同点。一瞬、山東サポーターの多い市球技場が静まり返る。先制から同点の間10分はなかったと思われる。短すぎる山東の優位！そして、右サイドも破られセンターリングを見事に合わせられ、すぐ逆転。仕上げに、中盤のスローインからあっけなくゴール付近までドリブルで運ばれ、地を這うミドルシュートにより追加点を許す。結局、前半1対3。

確かに、羽黒のアタッカーの個の力が素晴らしいとはいえ、繰り返しトレーニングを積んでいるボールの奪い方²を実施していれば、何点かは防げたはず（もしかしたらすべて防げた）。要は、**押され気味の試合内容であっても、ゴール付近でボールへの対応を誤らなければ、ほとんどの失点は防げる**ということ。後半も前半同様、羽黒の攻撃練習のよう。**山東の攻撃は相手CBの裏のスペースをシンプルにつくことしかできず**、アウトサイドからえぐるとか、CBの裏を突くふりをしてバイタルエリア³への侵入を試みるとか、ともかくアイディアに欠ける（またはそのアイディアを可能にするスキルに欠ける）。終了間際、よくわからない形からPKを得てそれを決め2得点しましたが結局5失点して2対5の惨敗。

そして、すぐ山形中央との対戦。場所は同様に市球技場。山形中央は体育科を持つ県立高校で、羽黒同様、近年の山形の高校サッカー界をリードしてきた存在。一定レベル以上の選手が必ず一定数進学する学校。私立高校のように推薦制度によって選手を獲得できるのは、本当にうらやましい。昨年、長期政権を築いた監督が異動し監督交代。そして**今年の異動で山東サッカー部OBにして元専門委員長⁴である大ノリオ先生をも顧問に迎え、指導体制が一層強化された（はず）**。

試合が始まると、羽黒戦同様、押されつ放し。山形中央は作戦なのか、徹底してアウトサイドを狙ってくる。SH・SBのアウトサイドでのドリブル突破もあるし、FWが山東SBとCBの間を狙ってもくる。ともかく、どこかでしっかりボールを奪うか少なくとも前進させないディフェンスをしなければいけないのに、あっけなくゴールライン付近までボールを運ばれ、繰り返しCKを与える。ベンチ入りした芹川トレーナーと齋藤GKコーチと「どうしてこんなに簡単にCK与えるのだろうか」と首を傾げる。**前半早々に与えた連続CK、何と7本**。そりゃ、繰り返し相手にチャンスを与えていれば、耐えきれずやられますよ。7本目でクリアが短くかつ真中にこぼれたところをファインシュートを決められ、あっけなく先制を許す。こうも1対1の力量（個の力量）に差があると、数的優位を作る議論も空しい。攻撃ではなかなか形らしいものも作れず、結局前半もう1失点し、0対2で折り返す。後半は前線でボールを奪い攻めようとするも、山形中央の的確なビルドアップに振り回されるばかり。というか、**負けているんだから、もっと前線に人数をかけなけ**

² 角度を守りながら前を向かせず、ボールと相手の体の間に自分の体を入れる守備のこと。これができず、相手に体をくっつけて体で相手の進行方向を防ごうとする稚拙な守備がすべての失点の原因です。この稚拙な守備だと、下手な選手は止められますが、普通以上のレベルの相手だと止められません（まず、相手の体に自分の体をつけますが、これだとボールが見えづらくなる）。要は山東の選手、下手な選手を相手にする癖が付いており、かつ、なかなかそれが取れていない。

³ CBの前のスペースのこと。

⁴ 県内の顧問の代表とも言えるポスト。ちなみに私は今年度よりそのポストを務めることになりました・・・。

れば相手 DF のボール回しを奪えるわけがない。 ボールと逆のアウトサイドで無駄にマンマーク気味に対応している（人数をかけている）ことから、ボールにプレッシャーがかかっている。前でボールを奪いたかったら、「ボールサイドに寄せる」「ラインを押し上げる」守備が必要ですが、後ろや逆サイドがビビって相手に引きずられているようでは、前で奪いたい前線の選手とかみ合わないのは当然（前線は前がかかるが後ろは下がるから）。結局、後半も良い所はなく、完全に崩される形で追加点を許し、0対3の完敗。

そしてGWのトレーニングを経て、5月6日米沢中央戦。場所は米沢市営サッカーフィールド（人工芝）。米沢中央は、監督やコーチと同郷の名古屋出身の県外選手がスタメンの大半を占め、米沢FCと長井ユナイテッドFCの選手が空隙を埋めている。ともかく、DFからFWまで、素晴らしいスキル・判断力を有する。前節日大山形との試合では、日大の的確な寄せの前に技術を発揮できないシーンが多かったものの、あと一步で得点というシーンを複数回作りだしていた。結局日大に0対1で敗れたものの、トーナメントの一発勝負ならわからない（日大に勝つかも说不定）という雰囲気は感じた。しかし、その好チームも、Y1ではここまで勝ち点1。苦しんでいる。今節の山東戦は必勝を期して臨んでくると思われる。**山東は、いろいろ考慮し、引いて守るリトリート作戦を採用。**前から奪いに行かず、ひとまず引いてコンパクトに布陣し、奪ったボールを素早くカウンターにつなげる作戦。思えば、この3年生の代が1年生の時、1年生大会で使用したのでした。当時9人しか1年生がいなかったため、とにかく引いて守り、少ないチャンスをものにする作戦で試合に臨んだ。その大会は、初戦山南戦をFKからのタイチのヘディングシュートで破り、2回戦モンテユース戦もムントリの突破からのシュートで先制し、あわや勝利というところまで行ったのでした（結局1対2で逆転負け）。そう考えれば、この作戦もこの代にとっては「昔取った杵柄」か。ただですね～、引いて守る作戦は相手の攻撃を味方ゴール前に呼び込むだけに、ボールを奪うべきエリアで厳しくボールに迫れないと作戦があだになる。

さて、試合が始まると、早速稚拙な立ち上がりでピンチを迎えるものの、それを乗り切ると徐々に引いて守る作戦が当たり出す。米中はボールを左右に動かし、薄いところをしっかりと突いてくるし、混雑した状況でも縦パスをワンタッチで角度を変え（フリックし）ワンツーで守備者をはがしてくる。素晴らしいスキルと戦術眼と言えますが、山東もだてに密集していないわけで、必死のディフェンスに米中もネットを揺らすことができない。しかも、山中戦と比べ、散発的に山東も攻め込むことができている（特に右から左へのサイドチェンジを伴う攻撃が有効だった）。**引いて守る無骨な戦いではありましたが、山東からすれば狙い通りの展開で、前半両チームスコアレス。**しかし、もったいないことに！後半立ち上がり、引いているので人数はいるもののゴール前で稚拙な対応をしまい失点。こういった展開ではですね、粘って守りつつ相手の攻め急ぎを突きカウンターから少ないチャンスをものにする必要がある。**引いて守るチームがあっけなく得点を許しては、ゲームプランがすべて狂う。**その後は、負けており引いて守っていても仕方ないので、前がかかってボールを奪いに行くも、ひらりひらりと米中のビルドアップにかわされ、**遊ばれているかのよう。**後半は米中の攻撃練習と見間違ふような一方的な展開により、結局0対3の惨敗。山中戦同様、前からボールを奪うには人数のかけ方が中途半端でした・・・GW

中も指導者が修正させられなかったということですね。

ということで、完敗3連発となりました。ここまででY1、1勝4敗。**前期はあと次節山形城北戦と最終節の鶴岡東戦を残すばかりとなりました。正直、新チームで臨む後期のことも考えると、この段階で勝ち点3は非常に辛い展開ですが、とにかく残り2節に必勝を期します。**応援よろしくをお願いします。

5月23日(土) Y1 第6節 山形城北戦 @白鷹町営東陽の里G 13:00~

県総体激励会及び新入部員歓迎会 賑やかに挙行される

4月29日(水) Y1 山形中央戦があった日の夕刻、保護者会主催の県総体激励会及び新入部員歓迎会がホテルキャッスルにて開かれました。本当は勝って気持ちよくお酒を飲みたかったのですが、上述のような辛いお酒(超辛)を飲むこととなりました。Y1以上の上位8チームに与えられるシード権をすでに獲得しているため、山東は地区総体を待たずに県総体の激励会ができる。また、**新入部員13名(内女子マネージャー1名)**およびその保護者の歓迎会でもある。歓迎する側は2・3年生の20名の部員(内女子マネージャー2名)およびその保護者。正直、部員数の少ないことにびっくり。**3学年合わせて33名(選手30名)**というのは、**昨年の最低部員数記録を更新⁵**。しかし、部員を取り囲むOB・保護者の数が多いのが本校サッカー部の特徴。夫婦での参加が多いので部員数をゆうに上回る保護者の数。そして、**岸新OB会長、清野名誉会長(総監督)、後藤報道局長、丹野副幹事長、**スタッフとして**芹川トレーナー(せりかわ整骨院)と齋藤GKコーチ、**来賓として**佐竹前校長(元顧問)**と、錚々たる顔ぶれ。武田保護者会長、鈴木新保護者会長および顧問の志村と今野を含めると、「高い席」は人一杯。まず、武田保護者会長の冷静かつ熱い激励のスピーチ、顧問を代表して今野のスピーチ、そして、来賓の新OB会会長、OB会名誉会長、前校長の御三方からスピーチしていただいた後、ようやく乾杯へ。ほどなくして私は保護者の皆様にお酌に行きましたが、部員数が少なくとも保護者数は少なくなっていないのか、時間内に保護者全員に注ぎに回るので精いっぱいでした。会が佳境を迎えると行われるのが、恒例の選手一人ひとりのスピーチ。やはり、学年が上がるごとにスピーチはうまくなる模様。落ち着きが生まれる(主張が芽生える)と言ったらいいか、ふてぶてしくなると言ったらいいか。締めはこれまた恒例の、保護者によるエール。毎年ですが、血管が切れないか心配になるほど熱いエールをいただくのですが、今年の代表は洪間さん。ぶっつけ本番ですので、フロアにいる他の保護者の皆さまと息ピッタリ、という訳にはいきませんでした。そのズレもほのぼの温かみのあるエールをいただきました。二次会もOB会始め多くの方から出席していただき、顧問の私も多くの保護者の方とお話

⁵ 昨年は選手33名、女子マネージャー3名の計36名でした。昨年も部員が少ないことをこのタイミングで嘆いたのですが、さらにこの記録を下回るとは・・・。来年は上回ることを期待したい。ちなみに、今野が赴任してからの部員数は以下の通り。H18年度47名、19年度51名、20年度50名、21年度42名、22年度43名、23年度47名、24年度50名、25年度42名、26年度36名、27年度33名。

することができました。選手ともども、県総体に向けて元気をいただきました。ありがとうございました。

地区総体 山形中央にまた完敗

5月9日（土）10日（日）山形市スポーツセンター（落合）にて地区総体が行われました。上述の通り、サッカー部は昨年度の県リーグ戦の結果に基づき、すでに県総体の出場権（第8シード）が与えられているのですが、シード権を持つ日大山形、東海大山形、山形中央、山形城北とともに名誉をかけた地区総体に臨む⁶。山東の初戦は山形中央⁷。Y1で敗れたばかりのチームでしたが・・・早々に守備のすきを突かれ2失点し、結局0対3で完敗。そもそも層が薄いチームなだけに、故障者が出るとカバーしきれない、というのが本音ですが、言い訳ばかり言っても仕方ないですね。**Y1での対戦よりも、山東 DF に落ち着きがあり、相手の状況を見て低い位置からゲームを作ろうとしている。うまくゴールに迫ったとは言えませんが、ダイレクトに攻め込むだけでなく、薄いところを突くために落ち着いてサイドを変えていくことも必要。うまくいったかどうかは別として、その意識は持ち続けてほしいと思いました。**

県大会で勝てない年も地区大会では強かったりして、「地区大会の山形東」の名をほし
いままにしましたが、その名も過去の話。でも、あまり嘆かないようにします！ とにか
く、次はY1山形城北戦、そしてその翌週からの県総体です。がんばります。

⁶ 地区総体決勝トーナメントは、4月から5月にかけて行われた村山地区リーグ（Mリーグ）を勝ち抜き、すでに県大会の切符を得た明新館、山形工業、山本学園の3校を交え、8チームで争われました。

⁷ この組み合わせは、去年の地区新人の結果を反映させたものです。

♪雑感♪

部報の紙幅に余裕がありましたので、OBの状況について書こうと思います。山東の卒業生で教員養成課程のある大学に行く例はあまり多いとは言えないのですが、ご多分に洩れず、これまでサッカー部OB・OGで教員免許を取り教員になった人数は決して多くない。しかし、山東10年目の顧問今野にとって、そろそろ収穫の秋を迎えつつあるかもしれません。

今年、山東57回卒のコータローが長年の雌伏の時を経て、今年山形明正に講師として採用され、サッカー部顧問として活動を始めました（ちなみに年代を分かりやすく伝えるために現3年生のタイチ主将の代を卒業回数で言うと、66回卒になります）。61回卒の Kouスケも大卒一発で山形の中学校社会で採用され、現在葉山中学でがんばっているはず（そしておそらくサッカー部顧問をしている）。59回卒のシンペーが2年前から筑波大学のついでで鳥取城北高校（相撲の強豪校！）のサッカー部顧問をしています。山形にて教え子のサッカー部顧問はこれまでにいなかっただけに、二人の就職はともうれしいし心強い。

来年度は、もしかしたら新潟大に行っているタダケン（62回卒）も戻ってくるかもしれない。その次の年はいよいよ満を持してオオツキさん（62回卒）が山形県の中学校で採用試験を受けるだろう。ということで、これからサッカー部OBの顧問が増えていくと思います。不肖今野には任せられないとばかりに、高校の教員になり山東に赴任するかもしれないOBももっと出てきてほしい。10年も顧問を務めていると、そんな楽しみも出てきました。